



陶都のまもり

多治見警察署からのお知らせ

多治見警察署 (☎0110)

9月21日～30日は秋の全国交通安全運動

運動の重点

1、子どもと高齢者を始めとする歩行者の安全確保

ドライバーの皆さんへ

横断歩道は歩行者最優先です。横断歩道を横断しようとする人や横断中の人がいる場合は、必ず停止して横断者を通行させてください。

歩行者の皆さんへ

横断歩道の付近では横断歩道を渡る義務があります。

また、道路を斜めに横断したり、車の直前、直後を横断したりすることも危険ですので、絶対にやめましょう。

2、夕暮れ時と夜間の歩行者事故などの防止及び飲酒運転の根絶

ドライバーの皆さんへ

交通事故は夕暮れ時から夜間の時間帯に多く発生しています。自車の存在をアピールするためにも、早めのライト点灯を実践しましょう。

また、夜間のヘッドライトはハイビームが基本です。先行車や対向車がない場合は、ライトをハイビームにして早く危険を発見するように努めましょう。

歩行者の皆さんへ

夜間出歩く際は、明るい服装で反射材を着用して自分の存在を目立たせましょう。

3、自転車の交通ルールの遵守の徹底

県では令和4年4月1日から「岐阜県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が施行されました。この条例により、10月1日から自転車保険の加入が義務化となったほか、自転車用ヘルメットの着用が努力義務となります。

万が一の事故に備え自転車保険に加入をするとともに、自転車に乗る際は自転車用ヘルメットを着用しましょう。



ようこそ手話の世界へ

これまでに紹介した手話写真の動画を見ることができます。



福祉課 (内線217)

情報を知ること広がる世界

私は、母が妊娠中に風疹に感染したことで、先天性聴覚障がい者になりました。小学校は地元の学校に通いましたが、中学校からはろう学校で学びました。幼い頃、うっかりして車にぶつかりそうになった時、運転手さんが母親のところにきて、「クラクションを鳴らしても動かない。危ないじゃないか」と怒ったそうです。その後、母に「周りをよく見るように」と強く叱られました。

ろう学校を卒業して社会人になると、手話でのコミュニケーションはほとんどなくなります。身体の不自由はないので、仕事は理解すれば困ることはありませんが、ろう者の感性はなかなか理解してもらえません。

一般的に、日本語は曖昧に話すことが日常的ですが、ろう者にとって曖昧な日本語は分かりにくいものです。筆談も面倒がられることが多いです。会社や地元の人たちのことももっとよく知って、私自身が社会の一員として生きていきたい。どんなことを、どんな方法でも構わないので伝えてほしいと思います。

かんたん手話講座

土岐市民の歌から「ひとつばたごの」

「ひとつばたご(木)」



両手の親指と人差し指で大きな丸を作る



上にあげながら左右に広げる



木の上を覆うように咲く花を表す



人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

まちづくり推進課 (内線311)

9月19日は「敬老の日」です

人生100年時代の到来
厚生労働省によると、2020年の日本人の平均寿命は男性が81・64歳、女性が87・74歳とされ、現代は「人生80〜90年時代」と表現することができるよう。明治時代の日本人の平均寿命が40代前半であったことを考えると、飛躍的に伸びています。ある研究によると、2007年に生まれた子どもの約半数が100歳以上生きるともいわれており、まさに「人生100年時代」が間近に迫っています。

高齢化×デジタル化

ーデジタルデバイスー

かつてない高齢化社会を迎えている日本ですが、社会におけるデジタル化も急速に発展しています。申請手続きをはじめ、オンライン会議やデジタル家電など、生活のあらゆる分野でデジタル化による利便性が向上している一方、その恩恵を受けられない多くの高齢者がいます。デジタルデバイス(情報格差・インターネットなどの通信技術)を使える人と使えない人との間に生じる格差、ともいわれ、デジタル社会における大きな課題の1つとなっています。今後ますます深刻になっていくことが予想されます。

高齢者に寄り添う社会

PCやスマホの使い方など、地域のスマホ教室などにより解消できる部分もありますが、多岐にわたるデジタル化の全てに対応することは困難です。若い世代の、できて当たり前が、高齢者の当たり前前ではありません。もし身近に困って助けを必要としている方がいたら、寄り添い、助けてあげましょう。一人一人の思いやりある行動が高齢者に寄り添う社会へつながっていきます。

9月19日の敬老の日は、身近な高齢者の方に感謝の気持ちを伝えるとともに、あらためて高齢者に優しい社会について考える日としましょう。



誰一人取り残さない 安全で安心なやさしいまちを目指して

Re Start 再犯防止の情報をお届けします

まちづくり推進課 (内線311)

Vol. 9 3年ぶりの街頭啓発 中学生保護司 大活躍!!

犯罪や非行のない地域をつくるために、一人一人が考え、参加するきっかけをつくることを目指し、さまざまな活動が行われる「社会を明るくする運動」。7月はその強調月間でした。

土岐保護区保護司会では、この強調月間に合わせ、市内各中学校の代表を「一日中学生保護司」として委嘱し、保護司の皆さん、市長などと土岐市駅で街頭啓発を行いました。

平成18年度から行われてきたこの活動も、昨年、一昨年はコロナ禍によりやむを得ず中止しましたが、今年は気持ちも新たに実施することができました。

中学生という若い時期に、犯罪や再犯防止について考え、市民に啓発することはとても意義深いことです。

国内では、一度の過ちや失敗を徹底的に非難する行動や発言が見受けられるようになりました。

社会で道を外した人が社会復帰したとき、一市民として何ができるのか、どんな支援ができるのか。

こうした取り組みをきっかけに市民の皆さんに考えていただければと思います。



土岐市駅で啓発を行う一日中学生保護司の皆さん